



10/8 Sat 「南信州ライブ×高校生ライブ」 in 結いスクエア
 ～南信州の魅力を音楽で広げよう～
 @丘の上 結いスクエア 2階 多目的ホール

南信州広域連合が主催し、飯田文化会館と飯田市公民館が共催したこのイベント。この日、飯田高校ギター班と飯田風越高校のフォークソング部の高校生11人が「南信州の魅力を音楽で広げる」をテーマに下條村出身のシンガーソングライター・でこさんをゲストに迎え、ライブで交流を深めながら、高校生の地域に対する思いや将来について意見を交わしました。

現在、山梨県富士吉田市に暮らすでこさんは、伊那谷の方言を歌詞に盛り込んだ「わしゃほのおじい」を演奏。「方言は暮らしや育った環境の全てが反映されている。外に出たから、この地域の良さがわかる」と話し、「良い景色・出会い・経験をした時に、一番曲がしやすい。南信州で生まれた曲は沢山ある。」と、心を動かされるものに触れること、感動することの大事さについて話しました。

意見交換会では、地元で暮らす良さについて「人との距離が近く温かい」「自然が多い」など人や自然、食などに対する意見がある一方、「若者が行きたくなるような場所が欲しい」など、商業施設やライブ、イベントなどの少なさを指摘する声もありました。

コーディネーターを務めた桑原利彦さんは、高校生の活動に対し「今住んでいる場所が好きで、大切にしたいと思った時に『なぜ好きなんだろう?』と今一度考え、そこからぜひオリジナルの歌を作ってみたい」と、アドバイスを送りました。



飯田文化会館 今昔物語 vol.2

文化会館は、利用の多くが大ホールと会議室となっていますが、1972年(昭和47年)に開館した当時のパンフレットを見ると、現在は用途が変更になった館内の設備が紹介されています。管理棟2階には、神式の結婚式場や食堂があり、屋上には南アルプスを望む屋上庭園もありました。当時はこれらの場所も多くの人々が利用していました。

昔の思い出写真募集しています

あなたと文化会館の思い出を、このニュースレターで紹介しませんか?

写真と一緒に、撮影年月とエピソードを書いて文化会館事務局までお持ちください(写真はコピーでも可)。写真データがある場合は、メール送付でも受け付けます。件名を「思い出の写真」と表記して、お名前と連絡先(受信可能なメールアドレス、電話番号)を必ず記入の上、お送りください。

飯田文化会館「思い出の写真」係 宛 ibunka@city.iida.nagano.jp

TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

飯田文化会館 ニュースレター

市民ワークショップ
 飯田の文化をともに考える BUNKAミーティング

2022.11
 Vol.2
 TAKE FREE

第3回 飯田市新文化会館整備検討委員会

「南信州ライブ×高校生ライブ」 in 結いスクエア
 ～南信州の魅力を音楽で広げよう～

いろいろな年代の人たちの
 関わりがある場所にしたい

なぜ、文化会館を
 活発にしなければならないの?

リニア開通によって
 訪れた観光客も
 楽しめる場所になると良いな

他にはない、飯田特有の
 雰囲気を感じられると良いな

「だれもが集い、つくり、
 伝える、感動の飯田ひろば」

生活の中に溶け込む施設って?





9/4 Sun 飯田の文化をともに考える
BUNKAミーティング @橋南公民館

りんご並木が歩行者天国となり「まちかど芸術祭」で賑わった9月4日。りんご庁舎内の橋南公民館で参加者20名によるBUNKAミーティングを文化会館が主催しました。参加者の多くは若者で、音楽活動を行う高校生たちに加え、中心市街地の研究で飯田市を訪れていた県外からの大学生4名も参加。ここではワールドカフェ方式*で市民ワークショップを行い、新しい文化会館に対するさまざまな意見が出されました。



*ワールドカフェ方式…『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加した全員の意見や知識を集めることができる対話手法の一つ。

「自分たちだったらどうしたい？」自由な意見・本音を、ざっくばらんに

冒頭では、まちかど芸術祭を主催する桑原利彦氏(IIDA WAVE 代表/新文化会館整備検討委員)から「今は誰もが意見や考えを積極的に言える時代。これからの時代に、どんな文化会館であってほしいか、どんなことがしたいか、自分たちの意見・思いを自由に伝えてほしい」との言葉があり、参加者は5グループにわかれ、主に2つのテーマから個々の意見を交わしました。



Theme 1

こんな文化会館なら行ってみたい!

- 発表のためだけでなく、日常的に使える
- 障がい者、高齢者も使いやすい設備がある
- 本物の文化や芸術に触れられる
- 伝統芸能の発表を通して、次の担い手である若者と交流できる機会がある
- 音楽や芸術だけでなく、食などはじめとした異文化交流ができる
- 大人から子どもまで(どちらかに偏るのではなく)一緒にいられる交流の場になれば、日常の中でもコミュニケーションが増えるのでは

※さまざまな意見の中から一部を抜粋

Theme 2

飯田の文化芸術で、やりたいこと・活動

- 県外からも人を呼べるイベント
- ライブやフェスをしたい! ■ 手話劇
- 色々な視点から文化を見て、新たな発見をしたい
- 裏方など「支える側」をやってみたい
- ステージや椅子が移動式になれば、表現の幅が広がりそう!
- 人形劇と音楽を組み合わせるなど、新しいことをしてみたい
- たくさんの人と交流できるイベント

文化会館という施設としての意見だけでなく、「どんなものになれば、暮らしの中に存在できるか?」という普段の生活の中での関わり方にも言及されており、さまざまな角度から出された意見が印象的な、BUNKAミーティングとなりました。



9/22 Thu 第3回 飯田市新文化会館整備検討委員会

飯田らしさを大切に 一新文化会館の基本理念(素案)が話し合われるー

9月22日に開催された第3回新文化会館整備検討委員会では、これまで話しわれてきた“飯田の文化とは何か”“飯田文化会館が今まで果たしてきた役割と、これから果たしていく役割は何か”というテーマで出された意見等をもとに、新しい文化会館の基本理念について話し合いが行われました。



これまでのワークショップや市民アンケートで出されたキーワードから、次のように仮の基本理念を設定し、意見を交わしました。

仮に設定された
新しい文化会館の基本理念 (9/22 検討素案)

みんなが集い、創り、伝え、(共に)感動する「飯田 文化芸術 ひろば」

① ②a b c d ③ ④

4つの検討ポイント

- ① みんな
 - ②a 集う
b 創る
c 伝える
d 感動する
 - ③ 飯田: 飯田という独自性
 - ④ ひろば: ひろばという社会的、空間的概念
- 4つのキーワード



検討委員からは、

- 「みんな」という言葉は「色々な思いや考え方をを持った人たち」という意味で表現できると、より馴染むのではないかと
- 様々な「文化芸術」に触れたり創造発信ができる場である一方、いろいろな人が気軽にそれぞれの時間を過ごすことができるイメージも必要だと思ふ
- 「ひろば」は自然と人が集う場でもあり感動を共有する場にもなる

などの意見が出され、一つひとつの言葉の持つ意味やその捉え方を掘り下げていきました。

特に多くの意見が出されたのは「飯田」という言葉について。「地域を飯田市に限定せずより広域的に捉えていくことが大切では」との意見も。一方で、「基本構想のよりどころとして捉えた時に、重要になるのは『飯田』という言葉であり、この地域の独自性を考えていく上で必要。」「自分たちで創り、自分たちで伝えていくこと」を具体例にあげながら、リア開通なども見据えて、飯田らしさとは何かという観点からの話し合いも深まりました。

基本理念については、これまでの意見交換で出された30のキーワードと今回の意見を大切に、基本構想を考えていく上でのよりどころとしていながら、その検討を経て、最終案を決定していく予定です。